

事務事業評価表（一般事業）

（評価対象：令和 2 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	52-2	少人数指導等教育推進事業	担当課	学校教育課
			作成者	芝田 純也
施策体系	行政分野	④教育・文化	施策分類	1学校教育
	総合計画上の施策名	43 基礎学力と基礎体力の向上		
	施策名（評価単位）	(34) ふるさと教育、学校教育の充実		

2. 事務事業の目的	円滑な学校運営を目指し、児童生徒の学力の向上を図ります。 A L T（英語指導助手）が授業を補助することで、英語授業の内容を高めます。
------------	--

3. 事務事業の実績	
(1) 事業の実施内容（令和2年度）	<p>○複数指導者による授業を実施するため、非常勤講師を配置しました。 各学級の実態に応じ、学級又は学年を2～3クラスに分け、少人数での授業や、1学級を複数教員で指導する「チームティーチング」を行いました。</p> <p>○小中学校7校へのA L Tの巡回配置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語教員とA L Tによる複数教員指導を仕組み、英語の授業を充実させました。</li> <li>・小学校も中学校も、ネイティブの英語に触れ、より正確な発音を学ぶことができました。</li> </ul>

(2) 事務事業実施にかかるコスト <span style="float: right;">（単位：円）</span>				
区分	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度見込
① 直接事業費	46,764,428	22,374,306	60,295,000	63,450,000
② 人件費	300,000	300,000	300,000	375,000
③ 合計コスト ①+②	47,064,428	22,674,306	60,595,000	63,825,000
前年度比（％）		48.2%	267.2%	105.3%
財源内訳	国・県支出金	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他特定財源	0	0	0
	一般財源	47,064,428	22,674,306	60,595,000
④ 活動一単位当たりコスト	1,622,911.3	781,872.6	2,089,482.8	2,200,862.1
前年度比（％）		48.2%	267.2%	105.3%
⑤ コストに関する増減理由 （R2年度実績、R3年度見込）	令和2年度から会計年度任用職員となったため、事業費が増加しています。			

(3) 活動指標	指標名	教育活動時間				単位：	時間
	指標説明	非常勤講師の週当たりの教育活動時間					
		平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度見込		
	実績値	29	29	29	29		

(4) 成果指標	指標名	配置人数				単位：	人	評価：	+
	指標説明	少人数指導非常勤講師配置人数							
	目標値の設定方針	配置規定により算出							
		平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度見込				
	目標値	12	11	11	11				
	実績値	12	11	11					
達成度（％）	100.0%	100.0%	100.0%						

4. 妥当性評価（「No」となった場合には、その理由を「5. 評価・課題」に記載すること。）					評価	A
① 総合計画の体系の中で類似・重複した事務事業はないか	Yes	1	No			
② 民間の事業（サービス）との競合はなかったか	Yes	1	No			
③ 国や県の事業（サービス）との重複はなかったか	Yes	1	No			
④ 他自治体との比較、市民ニーズを踏まえサービスの水準を見直す必要がないか	Yes	1	No			

5. 評価・課題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数指導非常勤講師の配置により、基礎基本の定着のために、個に応じたきめ細かな指導を充実させることができました。</li> <li>・外国人英語指導助手（A L T）の配置により、英語の授業を充実させることができました。</li> <li>・できるだけ多くの非常勤講師を各校に配置し、新指導要領に合った指導力の向上を図ることが必要です。</li> </ul>	

6. 具体的な改善内容	改善時期	令和3年4月
<ul style="list-style-type: none"> <li>・年3回の研修会を充実させ、非常勤講師の資質向上を図ります。</li> <li>・予算要求において、その必要性を示し、非常勤講師配置人数の適正配置を目指します。</li> </ul>		

7. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	武井 由典
<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数指導非常勤講師の配置によって、一人一人に寄り添った指導が充実してきています。</li> <li>・徐々に基礎的基本的な学力が身に付いてきています。</li> </ul>		

今後の方向性	1. 継続	( 1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合 )
--------	-------	-----------------------------

事務事業評価表（一般事業）

（評価対象：令和 2 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	52-4	小中学校教員補助員設置事業	担当課	学校教育課
			作成者	芝田 純也
施策体系	行政分野	④教育・文化	施策分類	1学校教育
	総合計画上の施策名	43 基礎学力と基礎体力の向上		
	施策名(評価単位)	(34) ふるさと教育、学校教育の充実		

2. 事務事業の目的	学習不適應や生活支援を必要とする児童・生徒に向け、特別支援員の活用状況を向上させます。
------------	---

3. 事務事業の実績	
(1) 事業の実施内容(令和2年度)	○特別な支援を必要とする児童生徒の在籍学校へ特別支援員を配置 ・各学校において、特別な支援が必要な児童生徒を中心に特別支援員を配置し、一人一人の困り感に応じた支援など効果的に活用しました。

(2) 事務事業実施にかかるコスト <span style="float: right;">(単位:円)</span>				
区分	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度見込
① 直接事業費	19,039,926	18,547,846	20,563,000	23,200,000
② 人件費	300,000	300,000	300,000	525,000
③ 合計コスト ①+②	19,339,926	18,847,846	20,863,000	23,725,000
前年度比 (%)		97.5%	110.7%	113.7%
財源内訳	国・県支出金	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他特定財源	0	0	0
	一般財源	19,339,926	18,847,846	20,863,000
④ 活動一単位当たりコスト	773,597.0	753,913.8	834,520.0	949,000.0
前年度比 (%)		97.5%	110.7%	113.7%
⑤ コストに関する増減理由 (R2年度実績、R3年度見込)	令和3年度から特別に支援が必要な児童生徒への合理的配慮のため、1人増員しました。			

(3) 活動指標	指標名	特別支援員支援時間数				単位:	時間
	指標説明	週当たりの特別支援員の支援時間数					
		平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度見込		
	実績値	25	25	25	25		

(4) 成果指標	指標名	特別支援員配置人数				単位:	人	評価:	+
	指標説明	学校に配置する支援員の人数							
	目標値の設定方針	学校における要支援児童生徒の実態に応じた配置をする。							
		平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度見込				
	目標値	15	15	13	14				
	実績値	13	13	13					
達成度 (%)	86.7%	86.7%	100.0%						

4. 妥当性評価（「No」となった場合には、その理由を「5. 評価・課題」に記載すること。）					評価	A
① 総合計画の体系の中で類似・重複した事務事業はないか	Yes	1	No			
② 民間の事業（サービス）との競合はなかったか	Yes	1	No			
③ 国や県の事業（サービス）との重複はなかったか	Yes	1	No			
④ 他自治体との比較、市民ニーズを踏まえサービスの水準を見直す必要がないか	Yes	1	No			

5. 評価・課題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>支援を必要とする児童生徒に対して特別支援員が個別支援をすることで、学習に向かう姿勢が整ってきたり、学習内容の理解を深めたりしており、本人も周りも安心して学校生活を送ることができています。</li> <li>担任教師との連携がとられ、より効果的な全体指導につながっています。</li> <li>支援を必要とする児童生徒一人一人のニーズに対応できるように支援員の資質向上を図る必要があります。</li> </ul>	

6. 具体的な改善内容	改善時期	令和3年4月
<ul style="list-style-type: none"> <li>ICT機器を活用した支援に関する研修をするなど、実践的で応じた支援の方法を学び、資質の向上を図ります。</li> </ul>		

7. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	武井 由典
<ul style="list-style-type: none"> <li>特別支援員が個別に支援することにより、支援を要する児童生徒の学習が充実しています。</li> <li>特別支援員の研修会を充実させ、特別支援員の資質の向上を図り、さらに効果を上げていきます。</li> </ul>		

今後の方向性	1. 継続	( 1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合 )
--------	-------	-----------------------------

事務事業評価表（一般事業）

（評価対象：令和 2 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	52-5	和紙教育振興事業	担当課	学校教育課
			作成者	芝田 純也
施策体系	行政分野	④教育・文化	施策分類	1学校教育
	総合計画上の施策名	45 ふるさと（人と郷土を大切に）教育の推進		
	施策名（評価単位）	(34) ふるさと教育、学校教育の充実		

2. 事務事業の目的	美濃市の伝統文化である美濃和紙づくりを体験させることで、児童生徒の美濃市への興味関心を高めるとともに、伝統ある美濃市を誇りに思う気持ちを育みます。
------------	---

3. 事務事業の実績	
(1) 事業の実施内容(令和2年度)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校4年生の紙漉き体験</li> <li>○小学校6年生、中学校3年生の卒業証書用和紙漉き</li> <li>○牧谷小学校における「和紙の里学校」としての和紙教育の推進</li> </ul>

(2) 事務事業実施にかかるコスト <span style="float: right;">（単位：円）</span>				
区分	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度見込
① 直接事業費	442,800	438,350	456,800	477,000
② 人件費	150,000	75,000	75,000	75,000
③ 合計コスト ①+②	592,800	513,350	531,800	552,000
前年度比（%）		86.6%	103.6%	103.8%
財源内訳	国・県支出金	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他特定財源	0	0	0
	一般財源	592,800	513,350	531,800
④ 活動一単位当たりコスト	592,800.0	513,350.0	531,800.0	552,000.0
前年度比（%）		86.6%	103.6%	103.8%
⑤ コストに関する増減理由 (R2年度実績、R3年度見込)	対象学年の人数が増加したため、事業費が増加しました。			

(3) 活動指標	指標名	紙漉き体験回数				単位：	回
	指標説明	各校における小学校4、6年生、中学校3年生の紙漉きの回数					
		平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度見込		
	実績値	1	1	1	1		

(4) 成果指標	指標名	紙漉き体験率				単位：	%	評価：	+
	指標説明	小学校4、6年生、中学校3年生の紙漉き体験参加率							
	目標値の設定方針	全員参加							
		平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度見込				
	目標値	100	100	100	100				
	実績値	98	99	100					
達成度（%）	98.0%	99.0%	100.0%						

4. 妥当性評価（「No」となった場合には、その理由を「5. 評価・課題」に記載すること。）					評価	A
① 総合計画の体系の中で類似・重複した事務事業はないか	Yes	1	No			
② 民間の事業（サービス）との競合はなかったか	Yes	1	No			
③ 国や県の事業（サービス）との重複はなかったか	Yes	1	No			
④ 他自治体との比較、市民ニーズを踏まえサービスの水準を見直す必要はないか	Yes	1	No			

5. 評価・課題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・紙漉き体験ができることで、児童生徒は美濃市の伝統文化に触れた喜びをもち、和紙やふるさとに対する関心を高めています。</li> <li>・年1回の体験活動のため、該当学年で欠席した場合は、体験できません。</li> </ul>	

6. 具体的な改善内容	改善時期	令和3年4月
<ul style="list-style-type: none"> <li>・体験予定日に体験できなかった児童生徒に対して、別日を設定して体験できるように働きかけます。</li> </ul>		

7. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	武井 由典
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒が美濃市の伝統文化の理解を深め、ふるさとに誇りをもつことに役立っています。</li> <li>・美濃市の小中学校の特色ある活動として、今後も継続していきます。</li> </ul>		
今後の方向性	1. 継続	(1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合)



事務事業評価表（一般事業）

（評価対象：令和 2 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	52-6	子どもいきいき学校づくり事業	担当課	学校教育課
			作成者	芝田 純也
施策体系	行政分野	④教育・文化	施策分類	1学校教育
	総合計画上の施策名	45 ふるさと（人と郷土を大切に）教育の推進		
	施策名（評価単位）	(34) ふるさと教育、学校教育の充実		

2. 事務事業の目的	子どもたちに豊かな体験や経験をさせることを目指し、各学校において特色ある教育活動を実践します。
------------	---

3. 事務事業の実績	
(1) 事業の実施内容（令和2年度）	<p>○各学校ごとに特色ある教育活動の実践</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の人材や特色を生かした教育実践をしました。</li> <li>・子どもたちの感性を引き出す教育実践をしました。</li> <li>・学校の教育力を高める取り組みを支援しました。</li> </ul>

(2) 事務事業実施にかかるコスト <span style="float: right;">（単位：円）</span>				
区分	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度見込
① 直接事業費	3,802,004	3,723,304	2,806,148	3,400,000
② 人件費	300,000	375,000	375,000	375,000
③ 合計コスト ①+②	4,102,004	4,098,304	3,181,148	3,775,000
前年度比（％）		99.9%	77.6%	118.7%
財源内訳	国・県支出金	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他特定財源	0	0	0
	一般財源	4,102,004	4,098,304	3,181,148
④ 活動一単位当たりコスト	2,051,002.0	2,049,152.0	1,590,574.0	1,887,500.0
前年度比（％）		99.9%	77.6%	118.7%
⑤ コストに関する増減理由 （R2年度実績、R3年度見込）	令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策により取組内容を変更したため、補助金の返金がありました。			

(3) 活動指標	指標名	特色ある教育活動計画の提出				単位：	回
	指標説明	活動計画・報告の提出回数					
	実績値	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度見込		
		2	2	2	2		

(4) 成果指標	指標名	地域人材・素材を活用学校数				単位：	校	評価：	+
	指標説明	地域人材・素材を活用した特色ある教育活動を実施した学校数							
	目標値の設定方針	全学校で実施							
		平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度見込				
	目標値	7	7	7	7				
	実績値	7	7	7					
達成度（％）	100.0%	100.0%	100.0%						

4. 妥当性評価（「No」となった場合には、その理由を「5. 評価・課題」に記載すること。）					評価	A
① 総合計画の体系の中で類似・重複した事務事業はないか	Yes	1	No			
② 民間の事業（サービス）との競合はなかったか	Yes	1	No			
③ 国や県の事業（サービス）との重複はなかったか	Yes	1	No			
④ 他自治体との比較、市民ニーズを踏まえサービスの水準を見直す必要がないか	Yes	1	No			

5. 評価・課題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のよさを感じ、地域人材の生き方に触れることで、ふるさとに誇りをもち、ふるさとを愛する子どもの育成に役立っています。</li> <li>・各学校の特色を生かした教育活動を行うために、それに適した地域人材を探す必要があります。</li> </ul>	

6. 具体的な改善内容	改善時期	令和3年4月
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学校に対し、長期的な見通しをもった地域人材の活用が図られるよう。指導者バンクの設置などを指導します。</li> <li>・地域の組織を生かした取り組みになるよう、働きかけていきます。</li> </ul>		

7. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	武井 由典
<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが地域の特色を生かした豊かな体験活動を行うことで、ふるさと美濃に対する思いを強くしています。</li> <li>・今後も本事業によって、学校及び校区の誇りとなる特色ある教育を推進します。</li> <li>・組織を生かしながら、地域人材の発掘と活用をさらに進めます。</li> </ul>		

今後の方向性	1. 継続	( 1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合 )
--------	-------	-----------------------------

事務事業評価表（一般事業）

（評価対象：令和 2 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	52-7	士幌町フレンドシップ交流事業補助経費	担当課	学校教育課
			作成者	芝田 純也
施策体系	行政分野	④教育・文化		施策分類
	総合計画上の施策名	45 ふるさと（人と郷土を大切にする）教育の推進		
	施策名（評価単位）	(34) ふるさと教育、学校教育の充実		

2. 事務事業の目的	小学校6年生に豊かな体験活動を経験させることを目指します。
------------	-------------------------------

3. 事務事業の実績	<p>(1) 事業の実施内容(令和2年度)</p> <p>○新型コロナウイルス感染症対策のため、士幌町への訪問及び士幌町からの受入れを中止しました。 ○令和3年度に向けて、実現可能な方法を検討しました。</p>
------------	---

(2) 事務事業実施にかかるコスト <span style="float: right;">（単位：円）</span>				
区分	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度見込
① 直接事業費	8,350,000	8,069,819	20,000	20,000
② 人件費	1,050,000	1,200,000	375,000	375,000
③ 合計コスト ①+②	9,400,000	9,269,819	395,000	395,000
前年度比（％）		98.6%	4.3%	100.0%
財源内訳	国・県支出金	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他特定財源	0	0	0
	一般財源	9,400,000	9,269,819	395,000
④ 活動一単位当たりコスト	9,400,000.0	9,269,819.0	#DIV/0!	#DIV/0!
前年度比（％）		98.6%	#DIV/0!	#DIV/0!
⑤ コストに関する増減理由 (R2年度実績、R3年度見込)	令和2年度及び3年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、本事業を中止しました。			

(3) 活動指標	指標名	全体参加説明会の実施			単位：	回
	指標説明	事業の意義やねらいの理解を深めるための参加説明会の実施				
		平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度見込	
	実績値	1	1	0	0	

(4) 成果指標	指標名	参加人数		単位：	人	評価：	+
	指標説明	小学校6年生のうち、士幌町訪問事業に参加した児童数					
	目標値の設定方針	小学校6年生の85%（以上）参加					
		平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度見込		
	目標値	148	145	0	0		
	実績値	115	99	0			
達成度（％）	77.7%	68.3%	#DIV/0!				

4. 妥当性評価（「No」となった場合には、その理由を「5. 評価・課題」に記載すること。）	評価			
				B
① 総合計画の体系の中で類似・重複した事務事業はないか	Yes	1	No	
② 民間の事業（サービス）との競合はなかったか	Yes	1	No	
③ 国や県の事業（サービス）との重複はなかったか	Yes	1	No	
④ 他自治体との比較、市民ニーズを踏まえサービスの水準を見直す必要がないか	Yes		No	1

5. 評価・課題	<p>・年々、参加する児童数が減少しています。また、新型コロナウイルス感染症対策のため、令和2年度と3年度を中止しました。事業目的を再確認し、方法を検討する必要があります。</p>
----------	--

6. 具体的な改善内容	改善時期	令和3年4月
<p>・本事業の目的と方法について、検討しています。</p>		

7. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	武井 由典
<p>・児童には、とても貴重な体験の場となっていることから、今後も実現可能な方法を検討します。 ・これまでの経緯や現状を分析し、より効果的な体験活動となるように見直しを図っていきます。</p>		
今後の方向性	1. 継続	( 1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合 )

事務事業評価表（一般事業）

（評価対象：令和 2 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	52-8	ほほえみ登校推進事業	担当課	学校教育課
			作成者	芝田 純也
施策体系	行政分野	④教育・文化	施策分類	1学校教育
	総合計画上の施策名	47 児童・生徒・保護者への相談体制強化		
	施策名(評価単位)	(34) ふるさと教育、学校教育の充実		

2. 事務事業の目的	学校生活での不適応児童・生徒の学校復帰をめざします。
------------	----------------------------

3. 事務事業の実績	
(1) 事業の実施内容(令和2年度)	<p>1 適応指導教室 ・子どもたちの心の安定を図りながら、学校復帰のための支援を行いました。</p> <p>2 教育相談 ・不登校やいじめ、学習や生活習慣、親子関係等に関する様々な相談に対する活動を行いました。</p>

(2) 事務事業実施にかかるコスト (単位:円)				
区分	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度見込
① 直接事業費	1,076,822	1,156,621	3,858,664	4,092,000
② 人件費	225,000	300,000	300,000	300,000
③ 合計コスト ①+②	1,301,822	1,456,621	4,158,664	4,392,000
前年度比 (%)		111.9%	285.5%	105.6%
財源内訳	国・県支出金	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他特定財源	0	0	0
	一般財源	1,301,822	1,456,621	4,158,664
④ 活動一単位当たりコスト	8,187.6	8,722.3	27,724.4	43,485.1
前年度比 (%)		106.5%	317.9%	156.8%
⑤ コストに関する増減理由 (R2年度実績、R3年度見込)	これまで教育研究所運営経費からほほえみ教室指導員の報酬を支出しましたが、令和2年度から、ほほえみ登校推進事業からの支出としたため、事業費が増加しています。年により通室生が変わることもあり、生徒の状況により頻度も違うため、コストが変わります。			

(3) 活動指標	指標名	教育相談件数			単位:	件
	指標説明	児童・生徒、保護者および教職員からの相談件数(面談・電話相談等)				
		平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度見込	
	実績値	159	167	150	101	

(4) 成果指標	指標名	通室回数			単位:	回	評価:	—
	指標説明	ほほえみ教室へ通室した回数						
	目標値の設定方針	不登校生の教室復帰が目的のため、利用が少ないほど成果が上がっているといえます。						
		平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度見込			
	目標値	-	-	-	-			
	実績値	20	175	261				
	達成度 (%)	0.0%	0.0%	0.0%				

4. 妥当性評価 (「No」となった場合には、その理由を「5. 評価・課題」に記載すること。)					評価	A
① 総合計画の体系の中で類似・重複した事務事業はないか	Yes	1	No			
② 民間の事業(サービス)との競合はなかったか	Yes	1	No			
③ 国や県の事業(サービス)との重複はなかったか	Yes	1	No			
④ 他自治体との比較、市民ニーズを踏まえサービスの水準を見直す必要がないか	Yes	1	No			

5. 評価・課題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>通室生が自己肯定感を体得できるように活動を実施し、徐々に登校できるようになってきました。</li> <li>ほほえみ教室指導員が各小中学校を訪問し、心の支援を必要とする児童生徒の実態把握に努めました。</li> <li>通室には保護者の送迎が必要となりますので、本人が希望しても保護者の送迎ができない場合への対応が必要です。</li> </ul>	

6. 具体的な改善内容	改善時期	令和3年4月
<ul style="list-style-type: none"> <li>教育相談コーディネーターや養護教諭とほほえみ教室指導員の連携を、さらに図るようになります。</li> <li>学校と連携しながら、家庭訪問を行い、保護者とのつながりを大切にします。</li> </ul>		

7. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	武井 由典
<ul style="list-style-type: none"> <li>ほほえみ教室通室生が自己肯定感を体得できるような体験活動を充実させます。</li> <li>今後もほほえみ教室指導員による学校訪問を通して、児童生徒との関係づくりを築き、学校との連携を図っていきます。</li> <li>保護者とのつながりをもてるよう、家庭訪問を行います。</li> </ul>		

今後の方向性	1. 継続	(1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合)
--------	-------	---------------------------



事務事業評価表（一般事業）

（評価対象：令和 2 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	52-9	心の教室相談員設置事業	担当課	学校教育課
			作成者	芝田 純也
施策体系	行政分野	④教育・文化	施策分類	1学校教育
	総合計画上の施策名	47 児童・生徒・保護者への相談体制強化		
	施策名（評価単位）	(34) ふるさと教育、学校教育の充実		

2. 事務事業の目的	児童生徒の悩みやストレスの軽減にむけ、学校での相談対応率を向上させます。
------------	--------------------------------------

3. 事務事業の実績	
(1) 事業の実施内容（令和2年度）	<p>○小中学校への心の相談員の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談対象者の多い小中学校へ配置し、子どもたちの相談などをしました。</li> <li>・学校職員との連携や、ほほえみ教室との連携により、教育相談体制の充実を図りました。</li> <li>・相談員の資質向上のための研修会を実施しました。</li> </ul>

(2) 事務事業実施にかかるコスト <span style="float: right;">（単位：円）</span>				
区分	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度見込
① 直接事業費	2,883,639	2,827,903	3,106,478	3,416,000
② 人件費	225,000	225,000	300,000	300,000
③ 合計コスト ①+②	3,108,639	3,052,903	3,406,478	3,716,000
前年度比（％）		98.2%	111.6%	109.1%
財源内訳	国・県支出金	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他特定財源	0	0	0
	一般財源	3,108,639	3,052,903	3,406,478
④ 活動一単位当たりコスト	1,036,213.0	1,017,634.3	1,135,492.7	1,238,666.7
前年度比（％）		98.2%	111.6%	109.1%
⑤ コストに関する増減理由 （R2年度実績、R3年度見込）	令和2年度から心の相談員が会計年度任用職員となったため、事業費が増加しています。			

(3) 活動指標	指標名	配置校数			単位：	校
	指標説明	心の相談員配置校数				
		平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度見込	
	実績値	3	3	3	3	

(4) 成果指標	指標名	相談活動時間数		単位：	時間	評価：	+
	指標説明	各校における週当たりの相談活動時間					
	目標値の設定方針	毎日4時間の相談活動の実施					
		平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度見込		
	目標値	20	20	20	20		
	実績値	20	20	20			
達成度（％）	100.0%	100.0%	100.0%				

4. 妥当性評価（「No」となった場合には、その理由を「5. 評価・課題」に記載すること。）					評価	A
① 総合計画の体系の中で類似・重複した事務事業はないか	Yes	1	No			
② 民間の事業（サービス）との競合はなかったか	Yes	1	No			
③ 国や県の事業（サービス）との重複はなかったか	Yes	1	No			
④ 他自治体との比較、市民ニーズを踏まえサービスの水準を見直す必要がないか	Yes	1	No			

5. 評価・課題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・悩みがある子どもたちが心の相談員と話をすることで、心の安定を図ることができました。相談で得た情報をもとに、学校で体制を整えて子どもを支えることができました。そのため、教室に入りづらさを感じていた子ども足が向くようになりました。学習に対しても前向きに取り組んでいます。</li> <li>・スクールカウンセラー、スクール相談員などとの連携を、さらに強化する必要があります。</li> </ul>	

6. 具体的な改善内容	改善時期	令和3年4月
<ul style="list-style-type: none"> <li>・心の相談員研修会の充実を図り、他の担当者との連携を深めます。外部研修にも積極的に参加します。</li> </ul>		

7. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	武井 由典
<ul style="list-style-type: none"> <li>・心の相談員の配置によって、教育相談の充実が図られています。今後も、心の相談員の配置を行い、それぞれの学校で児童生徒の心の安定や成長を支える体制を、さらに整えていきます。</li> </ul>		
今後の方向性	1. 継続	( 1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合 )

事務事業評価表（一般事業）

（評価対象：令和 2 年度）

1. 事務事業の概要				
事務事業名	52-10	人権教育推進事業	担当課	学校教育課
			作成者	芝田 純也
施策体系	行政分野	④教育・文化	施策分類	1学校教育
	総合計画上の施策名	49 人権同和教育の推進		
	施策名（評価単位）	(35) 学校における人権同和教育の推進		

2. 事務事業の目的	人権への正しい理解と人権意識の高揚を育むために人権教育を推進します。
------------	------------------------------------

3. 事務事業の実績	
(1) 事業の実施内容（令和2年度）	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域ぐるみの人権教育の推進及び啓発の推進に関する取組                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・市人権教育研究会 ・「私のメッセージ展」実施 ・資料集作成</li> </ul> </li> <li>○人権教育における教職員の指導力向上をめざした実践研究に関する取組                     <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校人権教育部会 ・学校人権教育研究会</li> <li>・人権問題市民啓発講演会 ・美濃市人権教育実践資料集作成</li> </ul> </li> </ul>

(2) 事務事業実施にかかるコスト <span style="float: right;">（単位：円）</span>				
区分	平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度見込
① 直接事業費	440,000	469,200	470,000	394,000
② 人件費	300,000	375,000	375,000	375,000
③ 合計コスト ①+②	740,000	844,200	845,000	769,000
前年度比（％）		114.1%	100.1%	91.0%
財源内訳	国・県支出金	0	0	0
	市債	0	0	0
	その他特定財源	0	0	0
	一般財源	740,000	844,200	845,000
④ 活動一単位当たりコスト	437.4	515.7	516.5	477.3
前年度比（％）		117.9%	100.2%	92.4%
⑤ コストに関する増減理由 （R2年度実績、R3年度見込）	令和2年度までで、推進校への補助金を完了としましたので、事業費が減っています。			

(3) 活動指標	指標名	参加者数			単位：	人
	指標説明	「私のメッセージ展」への参加者数				
		平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度見込	
	実績値	1,692	1,637	1,636	1,611	

(4) 成果指標	指標名	「私のメッセージ展」への参加作品数			単位：	点	評価：	+
	指標説明	絵はがき、短冊等、園児・児童・生徒・一般によるメッセージ、標語、作文						
	目標値の設定方針	「私のメッセージ展」への参加						
		平成30年度実績	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度見込			
	目標値	1,400	1,375	1,364	1,340			
	実績値	1,373	1,334	1,177				
達成度（％）	98.1%	97.0%	86.3%					

4. 妥当性評価（「No」となった場合には、その理由を「5. 評価・課題」に記載すること。）					評価	A
① 総合計画の体系の中で類似・重複した事務事業はないか	Yes	1	No			
② 民間の事業（サービス）との競合はなかったか	Yes	1	No			
③ 国や県の事業（サービス）との重複はなかったか	Yes	1	No			
④ 他自治体との比較、市民ニーズを踏まえサービスの水準を見直す必要がないか	Yes	1	No			

5. 評価・課題	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研修や講演会を開催し、教職員の人権感覚を磨き、人権意識の高揚を図ることができました。</li> <li>・人権教育指導資料「同和問題学習」を活用した授業実践をしました。</li> <li>・各種授業公開がある中で、すべての授業で人権教育の観点を明確にしていますが、人権課題を直接取り扱う授業は多くありません。</li> </ul>	

6. 具体的な改善内容	改善時期	令和3年4月
<ul style="list-style-type: none"> <li>・美濃市幼保小中高人権連絡会における全学級授業公開において、人権についての知的理解に関わる授業を行うように指導します。</li> <li>・人権教育指導資料「同和問題学習」を活用した授業実践をさらに充実させるよう働きかけます。</li> </ul>		

7. 事業の総合評価及び今後の方向性	所属長氏名	武井 由典
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の研修を実施するとともに、各学校の実践を資料にまとめ交流し、市全体として指導力向上を図っています。今後も、人権教育の成果を発信しつつ、地域ぐるみの人権教育を推進していきます。</li> <li>・各校の人権教育担当が中心となって、人権教育に関わる校内研修を充実させるように働きかけます。</li> </ul>		

今後の方向性	1. 継続	( 1. 継続 2. 廃止 3. 完了 4. 統合 )
--------	-------	-----------------------------